



メロンやスイカでの根腐れ等によるしおれ症対策

メロンやスイカでは、着果後から収穫期にかけて、地上の茎葉には明らかな病徴が見られないのに、急に葉や株がしおれ、その後に回復やしおれを繰り返して、多くは収穫期までに一部が立枯れとなる症状が発生することがあります。これらの原因としては、各種の土壌病原菌やネコブセンチュウなどが根に寄生して生育に影響を与えている場合が多いことから下記を参考に防除を行って下さい。



しおれの原因は？

土壌病害虫

- ①黒点根腐病
- ②紅色根腐病
- ③ホモプシス根腐病
- ④根腐萎凋病
- ⑤根腐病
- ⑥ネコブセンチュウ



- ①根量が不十分
- ②株に負担のかかる栽培管理

対策

<土壌病害虫対策>

事前対策として、連作の回避、輪作の導入、ほ場環境の適正な管理や土づくり、適正な栽培方法を励行しましょう。

- ①土壌病害虫対策は、クロールピクリンなど土壌くん蒸剤による消毒もしくは夏季の還元型太陽熱消毒(R5.7.19 営農 News 第 3065 号参照)を行います。住宅地周辺のほ場では、ガスタード微粒剤などを使用します。
- ②ネコブセンチュウが単独で発生している場合は、DC 油剤やネマトリンエース粒剤を処理します。
- ③土壌病害とセンチュウが併発している場合は、ソイリンなどクロールピクリンと DD の混合剤が有効です。
- ④防除効果を高めるためには、適正な土壌水分や地温を確保する必要があります。土壌くん蒸剤を秋～冬の低温期に処理する場合には、被覆や処理期間をできるだけ長く保つ必要があります(土壌くん蒸剤処理法については R5.1.24 営農 News 第 3013 号参照)。
- ⑤クロールピクリン剤で土壌くん蒸処理を行った場合には、ウリ類の場合定植後につるボケが発生することがありますので、土壌診断に基づいて施用量を調節するか、元肥を控えめにして下さい。
- ⑥土壌消毒後のほ場を耕起する場合は、再汚染を防ぐためロータリ等の機械の土をよく洗浄してから行って下さい。

<耕種的防除対策>

しおれ症対策として、株に負担がかからない栽培管理を行いましょう。

- ①生育初期の十分な根量を確保するため、定植時の地温はできるだけ高く確保します(メロンでは 18℃以上)。
- ②被覆資材の開閉等により温度管理を適正に行い、地上部の伸びすぎを抑え、根張りの良い頑強な株に仕立てます。
- ③整枝や剪定は適期に適切に行い、過度な剪定は避けます。
- ④メロンやスイカでの、低節位での着果や過度な着果は、株への負担が大きく草勢が衰えやすいので適正な着果を心がけ、摘果作業は遅れないようにします。

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 News は J A 全農いばらきホームページでもご覧になれます。